

令和3年度公共事業 再評価諮問箇所個別資料

森林整備課 森林基盤整備交付金事業 1件

1 公共事業再評価諮問箇所一覧表、B/Cの考え方
P1~

2 個別事業箇所資料

- ・ 公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等
- ・ 再評価対象事業箇所調書
- ・ 個別箇所説明資料

森林基盤整備交付金事業（角の内線） P3~

令和3年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

森林整備課

令和3年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

No.	事業名	事業箇所 (地区名)	事業年度	進捗率 (R2)	対応方針
1	森林基盤整備交付金事業	角の内線	H22~R5	74%	継続
2					
3					
4					
5					
6					
7					

森林基盤整備交付金事業のB/Cの考え方

○総便益(B):林道開設により木材生産経費の縮減額及び森林整備に係る経費の縮減額。並びに一般交通や災害時の迂回路利用としての効果額等

【便益の詳細】

- 木材生産等便益(木材生産確保・増進)
- 森林整備経費縮減等便益(森林管理等経費縮減、森林整備促進)
- 森林の総合利用便益(フォレストアメニティ施設利用確保)

○総費用(C):林道開設経費+事業期間中及び林道開設後の40年間に要する維持管理費

○費用便益比:総便益(B)／総費用(C)

令和3年度公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等

(課名：森林整備課)

事業名 (路河川等名)	森林基盤整備交付金事業 (角の内線)																
継続・中止理由	<p>当路線は、多良岳北部に位置し、県が設定している「環境林」内を通過する総延長3,322mの森林施業道である。</p> <p>当路線の区域内には、終点側に既設行き止りの道路があるのみで、林内路網が未整備な状況にあり、手入れが行き届かず過密した林分状況となっている。</p> <p>当路線を早期に開通させ、森林の持つ多面的機能の早期回復及び高度発揮させるため、林道の開設を実施しているところである。</p> <p>事業の進捗は、令和2年度末で74%となっており、令和5年度完成を目標に事業を実施していくこととしている。</p> <p>なお、今回の延長理由は、当該現地を再確認したところ、落石の危険性が高い岩石群等が覚知されたことから、工事の安全施工及び供用開始後の通行の安全確保のため、落石対策工の検討及び工事の追加が必要となったことにより、やむを得ず期間の延長及び事業費の増加が必要となったものである。</p> <p>このようなことから、効率的かつ効果的な森林整備を実施するためにも早期に開通させる必要があることから、今後も事業を継続していくことが必要である。</p>																
B / Cの 算出方法	<table border="0"> <tr> <td>【便 益】(B)</td> <td>6 . 6 0 億円</td> </tr> <tr> <td>(内 訳)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木材生産等便益</td> <td>0 . 8 7 億円</td> </tr> <tr> <td>森林整備経費縮減等便益</td> <td>5 . 1 0 億円</td> </tr> <tr> <td>森林の総合利用便益</td> <td>0 . 6 3 億円</td> </tr> <tr> <td>【費 用】(C)</td> <td>5 . 9 9 億円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比 (B / C)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 . 6 0 / 5 . 9 9</td> <td>= 1 . 1 0</td> </tr> </table>	【便 益】(B)	6 . 6 0 億円	(内 訳)		木材生産等便益	0 . 8 7 億円	森林整備経費縮減等便益	5 . 1 0 億円	森林の総合利用便益	0 . 6 3 億円	【費 用】(C)	5 . 9 9 億円	費用便益比 (B / C)		6 . 6 0 / 5 . 9 9	= 1 . 1 0
【便 益】(B)	6 . 6 0 億円																
(内 訳)																	
木材生産等便益	0 . 8 7 億円																
森林整備経費縮減等便益	5 . 1 0 億円																
森林の総合利用便益	0 . 6 3 億円																
【費 用】(C)	5 . 9 9 億円																
費用便益比 (B / C)																	
6 . 6 0 / 5 . 9 9	= 1 . 1 0																
備 考																	

令和3年度再評価対象箇所
(対象：令和元年度再評価実施箇所)

(再評価実施後5年間が経過する前に工期延長及び事業費増額を行う事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト縮減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	再評価 時点 R 1	森林基盤整備交 付金事業 角の内線 事業主体：県 事業地：太良町	当路線の起点及び終点 は、藤津郡太良町多良地内 の既設道路に連絡する森 林施業道である。 当林道を開設すること により、間伐等の森林整備を 促進させ、森林の持つ多 面的機能の早期回復及び高 度発揮を図る。	全体事業費：4.0億円 全体計画延長：L=3,322m 幅員：W=3.0m 工期：H22～R3(12ヵ年) (起点・終点) 太良町大字多良 事業内容 開設工事 ・道路土工 ・法面保護工 ・舗装工(コンクリート路面工) など	H30年度末進捗率：73% (事業費 \wedge - \rightarrow) (年平均進捗率：8%)	・木材価格において、事業着手 時より若干の価格低下の傾向 はあるものの、影響を及ぼすよ うな大きな変化は見られない。 ・災害の実績なし	B/C=1.21 費用対効果の要 因の大きな変化 なし。	(コスト縮減) 再生材や建設副 産物の有効利用等 に努める。 (代替案) 特になし	事業採択後、 10年間経過	継続
	現時点 R 3	同上	同上	全体事業費：4.63億円 全体計画延長：L=3,322m 幅員：W=3.0m 工期：H22～R5(14ヵ年) (起点・終点) 太良町大字多良 事業内容 開設工事 ・道路土工 ・法面保護工 ・落石対策工 ・舗装工(コンクリート路面工) など	R2年度末進捗率：74% (事業費 \wedge - \rightarrow) (年平均進捗率：7%)	・木材価格がここ数か月上昇し ており、今後木材生産が活発化 する可能性がある。 ・災害の実績なし	B/C=1.10 事業費の増加に よる費用対効果 が減少。	同上	事業期間の延 長 (完了年度) 令和3年度 令和5年度 全体事業費の 増額 4.0億円 4.63億円	継続
	理由等			当初、想定していなかつた 落石対策工事の追加に よる事業費が増加。			当初、想定してい なかつた落石対 策工事の追加に よる事業費が増 加したため。		当初、想定し ていながかつた 落石対策工事 が必要となつ たため。	(理由) 路網整備は、森 林の適切な管理 並びに効率的な 森林作業に寄与 するものである。 また、当該路線 の開設工事完了 区間については、 計画的な森林整 備を実施してい るところである。 事業進捗は、令 和2年度末で74%と なっており、事業 効果を発揮する ため完成が必要 であり事業の継 続は必要である。

令和3年度公共事業再評価

森林基盤整備交付金事業

すみ うち
角の内線

【再評価実施後5年間に経過する前に
工期延長及び事業費増額を行う事業】

森林基盤整備交付金事業の目的

○目的

周辺森林の施業の効率化を図り、森林整備を推進するとともに、森林地域としての総合的な利用を行うことにより地域の活性化を図る。



森林基盤整備交付金事業 角の内線 位置図

事業箇所: 太良町役場より南西に約12km



事業計画の概要

	前回再評価(令和元年度)	今回
総事業費	4.0億円	4.6億円
工期	平成22年度～令和3年度 (12カ年)	平成22年度～令和5年度 (14カ年)
開設延長	3,322m	3,322m
幅員	3.0m	3.0m
利用区域面積	74ha	74ha
工事内容	道路土工、法面保護工、コンクリート路面工など	道路土工、法面保護工、コンクリート路面工、 落石対策工 など
費用対効果	1.21	1.10

事業の進捗状況

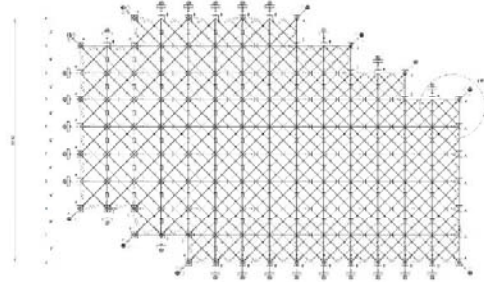
	令和2年度まで	令和3年度	令和4年度以降
事業費	3.4億円	0.4億円	0.8億円
進捗率	74%	83%	100%

再評価理由

○当初想定していなかった落石対策工事により、事業期間の延長及び事業費の増額が必要となったため。



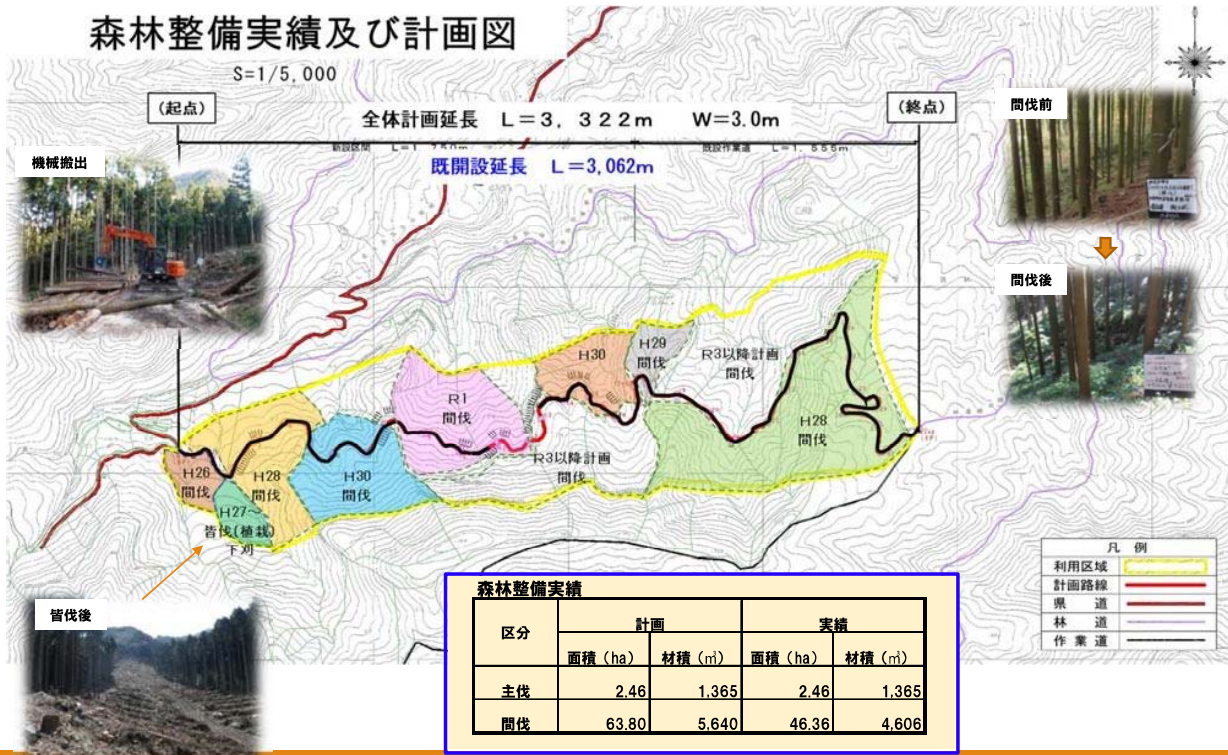
対策工:ワイヤーネットワーク工



【参考】施工事例

角の内線の森林整備計画及び実施状況

森林整備実績及び計画図



社会経済情勢等の変化

・木材価格がここ数か月上昇しており、今後木材生産が活発化する可能性がある。

・災害の実績なし

費用対効果の要因の変化

事業費の増加により費用対効果が減少

○総便益(B): 林道開設により木材生産経費の縮減額及び森林整備に係る経費の縮減額。並びに森林の総合利用施設利用確保の効果額等

(内訳)

- 木材生産等便益
- 森林整備経費縮減等便益
- 森林の総合利用便益

○総費用(C): 林道開設経費＋事業期間中及び林道開設後の40年間に要する維持管理費

費用便益比

$$\frac{\text{総便益 (B) } 6.60 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C) } 5.99 \text{ 億円}} = 1.10$$

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

再生材や建設副産物の有効利用等に努める。

(代替案の検討)

特になし

対応方針

- 路網整備は、森林の適切な管理並びに効率的な森林施業に寄与するもの。
- 当該路線の開設工事完了区間については、計画的な森林整備を実施している。
- 費用対効果についてもB/C1.0以上(1.10)が確保されている。
- 事業進捗は、令和2年度末で74%となっており、事業効果を発揮するため完成が必要。
- 地元要望に基づく事業であるため、今後の円滑な事業執行が可能である。

事業の完成に向け継続することとしたい